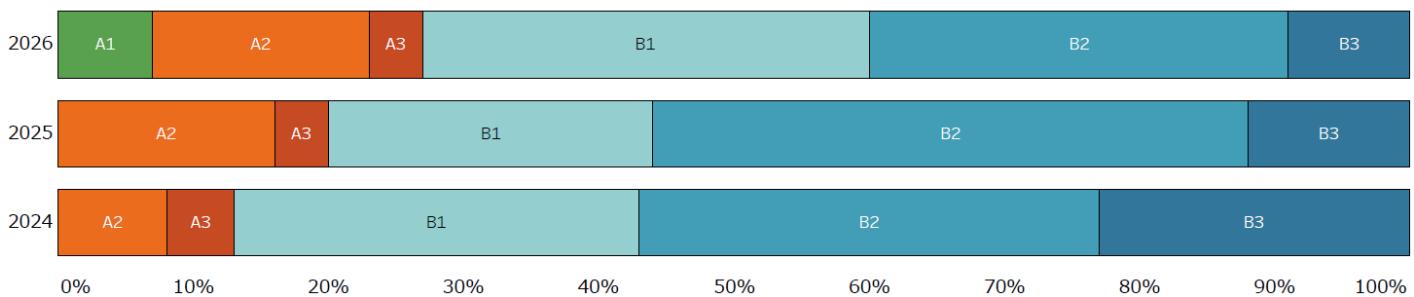


2026年 女子学院 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようにになります（Aは基礎的な知識・技術、Bは論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。知識・技術の正確な運用が求められるAの問題、論理的思考力が求められるBの問題が出題されています。2025年に引き続き、2026年も問題・解答用紙が別々となっていました。大問7題構成は例年通りで、難度も2025年とほぼ同じ印象を受けました。ただ、2026年は速さの問題が3題もありました。試験時間40分となるため、全てを解き切るのは非常に大変です。得点できそうな問題でしっかり得点を積み重ね、時間がかかりそうな問題は後回しにしていく判断力が求められます。



大問1は、例年通り計算、一行題の構成でした。(1)(2)は確実に得点しておきたいです。(3)は、JG頻出の求角の問題でした。最初の1問を間違えると、次の問題に影響するため注意が必要でした。ここも得点しておきたいです。(4)は、「4でわると3余り、5でわると1余り、7でわると4余る数」を求める基本的な問題でした。ここも得点しておきたいです。(5)「最短距離」で手が止まった受験生が多かったと思います。辺ABで長方形を折り返して考えますが、思いつかなければ後回しでよいと思います。

大問2は、約束記号の問題でした。(1)(2)はルールの把握、(3)は1716を積分解して考えます。(4)は、「5の倍数」となるので、5と10に着目してAに当てはまる数を求めます。できれば(4)までとおきたいところです。大問3は、図形の回転の問題でした。途中で、おうぎ形ができるので、中心角の合計に注意します。確実に計算して、ここも取っておきたいです。

大問4は、3人が移動する旅人算の問題でした。「人と出会ったら、向きを変えて反対方向に移動」「A、B地点に着いたら、向きを変えて反対方向に移動」します。ダイヤグラムを利用して移動の様子をとらえたいです。次の大問5も速さの問題でした。こちらは流水算となります。問題にグラフが示されているため、比較的取り組みやすいと思いますが、最初の1問を間違えると後続の問題に響くため、ミスに注意したいです。(1)～(4)は確実に得点しておきたいです。大問6も速さの問題でした。ここでは角度から時刻を求める問題でした。大問7は、立体の展開図でした。サイコロの展開図であれば、多くの受験生が取り組んだことがあると思いますが、ここではあまり見ない五角柱の展開図でした。大問6、7は、時間が取れず見送った受験生が多かったのではないかと思います。

40分間をフル活用するためには、素早い判断力、高度な処理能力は必須となります。あくまでも予想ですが、大問1(1)～(4)、大問2(1)～(3)、大問3、大問4(1)、大問5(1)～(4)が取れれば6割以上を確保できると思われます。残り時間を自分が取れそうな所に使って、得点を積み重ねたいところです。